

千刈狸の呟き

今シーズンの新番組でも医療系のドラマが始まります。主なものとしては「救命病棟24時シーズン5」、「DOCTORS 2」、「町医者ジャンボ!!」などでしょうか。私としては救命病棟24時が始まるのが嬉しいのですが、私の周りには医療系ドラマは見ないようにしている人も結構います。仕事で医療に携わっているのにドラマまで医療ものは見たくないという人もいます。もちろん私も1シリーズ12回ぐらいのうち4～5回見ればものすごく見たほうで、見られない日に録画してまで見るということはありません。それでは私にとって医療系ドラマの魅力は何なのだろうと考えてみました。

これまでテレビで放送されたドラマを書き出すと、先に書いたもののほかに、「白い巨塔」、「振り返れば奴がいる」、「外科医有森冴子」、「Dr. コトー診療所」、「チーム・バチスタの栄光」、「医龍」、「JIN -仁-」、「ギネ 産婦人科の女たち」、「コード・ブルー」、「白い影」、「ナースのお仕事」、「Ns' あおい」、「ナースマン」、さらに海外のものでは「ER」、「シカゴホープ」等非常に多くのドラマが放送されてきました。これまでの大まかな流れを見ると、昔のドラマは一人の天才医師が格好良く診断したり手術したりする話を中心でしたが、時代の流れとともにへき地医療だったり、チーム医療だったり、さらに看護師や研修医が中心となり、最近ではさらに細分化された専門分野で戦っている医師像が描かれたりもします。それと同時に最近はどこか陰のあるちょいワルなお医者様が主人公になる場合があり、ただ腕が良くて正義の味方のような人格者では主役になれない場合もあります。

私の好きなドラマのひとつとしてERがあります。ERはシリーズを重ねながら長期間にわたって放送されているだけあって、シリーズごとに少しずつその時の医療事情を交えながら作られている秀逸したドラマだと思います。医師像も最初の頃は優秀な指導医と一生懸命頑張っているレジデントとそっと見守るベテランナースのお話かと思っていましたが、ERに運ばれてくる患者の背景の複雑な事情がいつも話を膨らませ、ERスタッ

～ 医療系ドラマは好きですか？ ～

仔 狸

フの人間性が浮き彫りにされて目が離せないドラマのひとつでした。シリーズが重なるにつれて、個性的なERスタッフと変わった患者が目立つようになり、テーマも時には尊厳死だったり、臓器移植だったり、同性愛やエイズにまつわるものだったり、時代に合わせて進化していると思われました。

日本のドラマでは、白い巨塔はリメイクされるだけあって、医療のみならず教授選という1勤務医ではなかなか体験することのない部分を非常に泥臭く表現していて、昔のシリーズでも最近のものでもとても楽しみに見ていました。また、今回第5シリーズが始まった救命病棟24時も、回を重ねるごとにテーマが少しずつ変わってきています。今回は新しいスタッフとのかかわりと臓器移植がテーマになるようで、時間があれば見たいと思っています。

話は戻りますが、医療系ドラマの魅力はなんだろうかということ、私にとってはドラマの世界が非日常であるからかもしれません。自分が実際に病院で仕事をしている状況とは全く異なった緊張感があったり、爽快感があったり・・・同じ医療の現場とは思えないような世界だと思えます。最近のドラマは医療系の監督もきちんといるようで、酸素マスクがレスピレーターとつながっていたり・・・などという場面はほとんど見られなくなったし、使われている用語や道具も違和感のないものがほとんどです。医龍のように親切に術式や疾患の解説をしてくれるドラマもあります。医療監修がしっかりしてより実際の医療現場に近づけば近づくほど、ドラマの中に入り込むというよりは傍観者として客観的にドラマを視聴して純粋に楽しめるようになりました。もう一つのいいこととしては、患者さんや知り合いからドラマについての感想や時には質問をされることがあった時、話についていけるということです。良くある質問のひとつで「病院だとドラマに出てくるような格好良い先生とかいるんでしょう？」と聞かれます。これに対してはいつも「病院には江口洋介さんも坂口憲二さんも松嶋菜々子さんいませんよ・・・」と答えています。